

燃料油価格変動の運賃転嫁状況アンケート調査結果について
(2022年10月現在)

日本内航海運組合総連合会
安定・効率輸送推進委員会

I. アンケート実施概要

アンケート実施期間 2022年11月30日～2023年2月17日

(前回調査) 2021年12月10日～2022年2月22日

対象事業者数：172事業者（内航総連合会実施の輸送実績調査対象事業者（元請けオペレーター））

回答事業者数：81事業者（前回調査86事業者）

有効回答率：47%（前回調査49%）

II. 調査結果の概要

1. 転嫁率について

2021年9月末（A重油73,300円/KL C重油58,610円/KL）と2022年9月末（A重油117,400円/KL C重油102,790円/KL）との価格差（A重油44,100円/KL C重油44,180円/KL）の荷主への転嫁率は、転嫁率の高い順から高温液体、セメントが100%、燃料および鉄鋼が93%、高压液化が91%、黒油・白油・油脂が90%、雑貨・コンテナが87%、ケミカルが83%、原料が82%、自動車が80%、耐腐食が78%、機械・プラントが76%となった。一方で、砂・砂利・石材は68%、穀物・肥料・飼料が58%、木材・紙・パルプが34%となっている。

バンカーサーチャージ方式（以下、BS方式）は全体の61%、コスト保証方式が22%となっている。運賃に含むが17%となっており、未転嫁のフリー運航船によるスポット輸送がこの中に含まれている。

全体の転嫁率結果は前回調査より1ポイント減少し85%となった。

No.	輸送貨物	消費量	転嫁計	転嫁割合	運賃に含む	バンカーサーチャージ	コスト保証
1	鉄鋼	231,056	214,422	93%	31%	69%	0%
2	原料	138,529	113,322	82%	39%	39%	22%
3	燃料	47,836	44,561	93%	40%	52%	8%
4	穀物・肥料・飼料	17,836	10,350	58%	29%	71%	0%
5	機械・プラント	5,321	4,037	76%	5%	95%	0%
6	木材・紙・パルプ	62,214	20,900	34%	4%	96%	0%
7	雑貨・コンテナ等	317,964	275,511	87%	1%	98%	1%
8	自動車	194,386	155,494	80%	25%	75%	0%
9	セメント	110,491	110,249	100%	14%	37%	51%
10	砂・砂利・石材	4,063	2,754	68%	100%	0%	0%
11	黒油・白油・油脂	180,384	162,539	90%	1%	14%	85%
12	ケミカル	102,339	84,693	83%	8%	53%	39%
13	高压液化	77,132	70,296	91%	32%	38%	30%
14	高温液体	3,399	3,399	100%	0%	19%	81%
15	耐腐食	11,749	9,116	78%	13%	70%	17%
	計	1,504,699	1,281,644	85%	17%	61%	22%

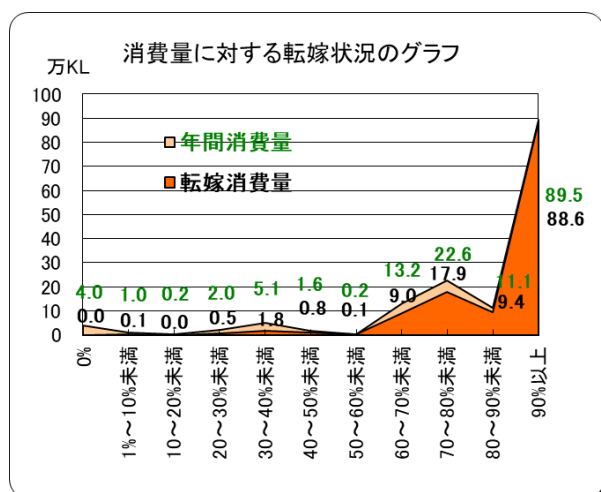
2. 輸送貨物別転嫁状況について

転嫁方法については、運賃を含むは前回 22%→17%、BS 方式は前回 46%→61%、コスト保証方式は前回 32%→22%となり、BS 方式は前回調査時より 15%の増加が見られている。

3. 事業者別転嫁状況について

転嫁率が 0%の事業者は、前回 7 社→1 社となり 6 社減少している。低い転嫁率の事業者割合については改善が見られている。

80%以上転嫁された事業者数は前回 49 社→53 社となり 4 社増加している。回答者の 2021 年度における年間消費量約 150 万 KL のうち、転嫁消費量は約 128 万 KL となり、転嫁率は前回調査より 1 ポイント減少の 85%となった。



(単位: KL、%)

転嫁割合	2022年10月調査						2021年10月調査					
	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合
0%	40,000	3%	0	0%	1社	1%	19,923	1%	0	0%	7社	8%
1%~10%未満	9,500	1%	665	0%	1社	1%	2,276	0%	47	0%	2社	2%
10%~20%未満	1,771	0%	257	0%	2社	2%	2,854	0%	461	0%	2社	2%
20%~30%未満	20,360	1%	5,452	0%	1社	1%	0	0%	0	0%	0社	0%
30%~40%未満	50,971	3%	17,501	1%	3社	4%	4,345	0%	1,693	0%	2社	2%
40%~50%未満	16,330	1%	8,052	1%	2社	2%	23,744	2%	11,014	1%	4社	5%
50%~60%未満	1,500	0%	800	0%	1社	1%	68,327	5%	39,591	3%	5社	6%
60%~70%未満	131,860	9%	89,910	7%	3社	4%	89,500	7%	62,650	5%	3社	3%
70%~80%未満	226,026	15%	178,581	14%	14社	17%	183,989	14%	137,682	12%	12社	14%
80%~90%未満	111,430	7%	94,490	7%	10社	12%	153,081	11%	125,557	11%	7社	8%
90%以上	894,952	59%	885,936	69%	43社	53%	792,509	59%	773,019	67%	42社	49%
計	1,504,699	100%	1,281,644	100%	81社	100%	1,340,548	100%	1,151,713	100%	86社	100%
	転嫁率85%						転嫁率86%					

*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない場合がある。

4. 満足度調査について

満足度については、現状の転嫁状況について「不満」・「やや不満」と回答した件数は前回 23%→19%、「満足」・「やや満足」と回答した件数は前回 64%→65%となり、不満に感じている意見が前回到続いて減少し、満足度も増加の結果となった。

現状	2022年10月		2021年10月	
	該当数	割合	該当数	割合
満足	118	51%	110	52%
やや満足	33	14%	26	12%
どちらでもない	37	16%	28	13%
やや不満	23	10%	23	11%
不満	21	9%	25	12%
合計	232	100%	212	100%

さらに輸送貨物ごとに「やや満足」・「満足」を「満足」、「不満」・「やや不満」を「不満」として整理して見ると、「満足」と答えた割合は、セメント、自動車、高温液体、耐腐食、砂・砂利・石材で 100%となっており、その他の輸送貨物でも高压液化で 93%、黒油・白油・油脂で 89%、鉄鋼で 78%、ケミカルで 76%、木材・紙・パルプで 75%、燃料で 72%、雑貨・コンテナ等で 71%と概ね 7 割以上の満足度となっているが、原料で 59%、機械・プラントで 50%、最も低い穀物・肥料・飼料では 17%となっている。

輸送貨物	満足計	不満計	計	満足割合	不満割合
ケミカル	29	9	38	76%	24%
黒油・白油・油脂	25	3	28	89%	11%
原料	16	11	27	59%	41%
鉄鋼	14	4	18	78%	22%
高压液化	14	1	15	93%	7%
燃料	13	5	18	72%	28%
雑貨・コンテナ等	10	4	14	71%	29%
セメント	9	0	9	100%	0%
自動車	5	0	5	100%	0%
高温液体	5	0	5	100%	0%
耐腐食	4	0	4	100%	0%
木材・紙・パルプ	3	1	4	75%	25%
砂・砂利・石材	2	0	2	100%	0%
穀物・肥料・飼料	1	5	6	17%	83%
機械・プラント	1	1	2	50%	50%

5. 今後の転嫁の見通しについて

今と変わらないが前回 85%→80%となり 5%減少した。良くなりそう・少し良くなりそうは、前回 11%→19%となり 8%増加した。悪くなりそう・やや悪くなりそうは 4%→1%となっており、改善の見通しが示されている。

No.	輸送貨物	良くなりそう	少し良くなりそう	今と変わらない	やや悪くなりそう	悪くなりそう
1	鉄鋼	10%	10%	81%	0%	0%
2	原料	17%	14%	69%	0%	0%
3	燃料	15%	5%	80%	0%	0%
4	穀物・肥料・飼料	13%	13%	75%	0%	0%
5	機械・プラント	50%	0%	50%	0%	0%
6	木材・紙・パルプ	13%	0%	63%	25%	0%
7	雑貨・コンテナ等	7%	13%	80%	0%	0%
8	自動車	14%	0%	86%	0%	0%
9	セメント	0%	0%	100%	0%	0%
10	砂・砂利・石材	20%	20%	60%	0%	0%
11	黒油・白油・油脂	10%	13%	77%	0%	0%
12	ケミカル	0%	16%	84%	0%	0%
13	高压液化	5%	10%	85%	0%	0%
14	高温液体	0%	0%	100%	0%	0%
15	耐腐食	17%	0%	83%	0%	0%
	計	9%	10%	80%	1%	0%

6. 交渉の有無について

転嫁についての交渉の有無については、出来ているが前回 69%→77%と増加し、出来ていないが前回 19%→11%と減少した。また、交渉中が前回 12%→12%と変わらずとなった。

交渉が出来ていると回答した輸送貨物は、機械・プラント、自動車が 100%、高压液化が 90%、雑貨・コンテナ等が 87%、高温液体が 83%、セメントが 82%、砂・砂利・石材、燃料は 80%、ケミカルが 77%、鉄鋼、原料が 76%、木材・紙・パルプが 75%と 7 割以上となっているが、耐腐食では 67%、黒油・白油・油脂では 63%、最も低いものは穀物・肥料・飼料で 50%となっている。

一方で、出来ていないと回答した輸送貨物は、機械・プラント、自動車、雑貨・コンテナ等の 0%、ケミカル、高压液化の 5%を除けば、11%~14%が出来ていないとの回答となっている。現在交渉中との回答では、穀物・肥料・飼料が 38%、黒油・白油・油脂が 20%、ケミカルが 18%、耐腐食が 17%と比較的高い水準となっている。

No.	輸送貨物	出来ている	出来ていない	現在交渉中
1	鉄鋼	76%	14%	10%
2	原料	76%	14%	10%
3	燃料	80%	15%	5%
4	穀物・肥料・飼料	50%	13%	38%
5	機械・プラント	100%	0%	0%
6	木材・紙・パルプ	75%	13%	13%
7	雑貨・コンテナ等	87%	0%	13%
8	自動車	100%	0%	0%
9	セメント	82%	18%	0%
10	砂・砂利・石材	80%	20%	0%
11	黒油・白油・油脂	63%	17%	20%
12	ケミカル	77%	5%	18%
13	高压液化	90%	5%	5%
14	高温液体	83%	17%	0%
15	耐腐食	67%	17%	17%
	計	77%	11%	12%

回答者からのご意見

輸送貨物	交渉有無	転嫁方法	満足度	見通し	意見
黒油・白油・油脂	出来ている	コスト保証	満足	今と変わらない	燃料価格変動による燃料費の上昇分については、十分とは言えないが荷主へ転嫁できている。一方で輸送コストのベースとなる運賃は低水準となっている。荷主への個別の交渉は行っているが、内航総連には石油業界との団体窓口として、運賃の適正な分担という課題について交渉をリードしていただきたい。
黒油・白油・油脂	出来ていない	コスト保証	満足	今と変わらない	今年度にスポット運賃レートを各荷主と交渉し一部改定を実施。また、今年度下期からも一部改定した。来年度もさらに交渉予定である。また、現時点では補助金が出ているため、転嫁率は100%となると考えるが、今後、補助金がどの様になっていくのか注視している。
鉄鋼	出来ている	バンカー サーチャージ	やや満足	今と変わらない	燃料単価価格上昇分についてはその都度、運賃に反映しており、運賃単価を前年比較したところ平均して概ね10%の上昇となっている。燃料の消費量が多い航路ほど燃料の運賃転嫁率の影響が大きくなる(同一航路で比較するとその数値は顕在化するが様々な航路に多岐に渡り運航しているため品目別に数値化するのはかなり困難である)。満足度や見通しについては、各営業担当者へのヒアリングの結果であり、主観的な意見もあったため会社としての統一的な見解を表現することは難しい。
黒油・白油・油脂	出来ている	バンカー サーチャージ	どちらでもない	少し良くなりそう	2年前の運賃改定時の燃料設定単価を高めに設定していたため、現在は様子見。ただし、現在の単価で推移するようであれば、バンカーサーチャージの交渉をする予定。